事業報告　福岡県教育庁筑豊教育事務所主管研修　令和6年7月28日(日)開催

筑豊ブロック少年団体等指導者研修会　兼　福岡県プレイリーダー2級研修会

本研修会は、子どもと関わる体験活動指導者を対象に、指導者の在り方や子どもの体験活動に係る研修を通して、プレイリーダーとしての自覚を深めるとともに、子ども会活動の活性化を図る具体についての識見を広げ、実践意欲を高める目的で実施しました。管内の子ども会関係者や行政職員等28名の参加者が一緒に学びを深めました。

研修１<実践発表>

「多くの子どもたちを募る取組の具体について」
八女市子ども会育成会連絡協議会
会長　小川　栄一　氏

小川氏による実践発表では、多くの子ども達を募るための工夫として大きく2点で発表されました。

第1点は「子ども主体の活動の工夫」です。具体的には、カルタ大会を例に説明をされました。カルタ大会で使用する「かるた」は、既製品ではなく子どもが手作りした「かるた」にしたことで、カルタ大会に臨む意識を高めることが出来たそうです。また、会の進行役も大人がせず、ジュニアリーダーがすることで、子ども主体の活動が成立したとのことでした。

第2点は「役員の自立性を支える運営方法の工夫」です。具体的には、元役員を留任させたことで、新役員が運営方法を適宜学ぶことができ、円滑な運営となったことです。また、運営に係る3つの委員会を立ち上げ、各委員会の役割を明確にされました。このことで、各委員会に所属する運営委員が自分の役割の範疇で企画・立案しやすくなり、自立的な運営ができるようになったそうです。

研修２〈講話・演習〉

「子どもたちがイキイキと活動できる子ども会活動について」
北九州市立大学　文学部　人間関係学科
准教授　山下　智也　氏

山下氏による講話・演習では、子ども会活動において子どもたちがイキイキと活動することができるように、山下氏が提唱する『隙間』を活用した事業づくりや活動中の大人の『居方』について教えていただきました。

子ども会活動における『隙間』を活用した事業づくりとは、例えば遊び道具を多めに準備しておき、子どもたちが自主的に道具を使えるようにしたり、活動の時間にゆとりを持たせ、子どもたちが自ら考えて遊びを工夫する場を設けたりすることです。このように子ども達が進んで子ども会に参画していくための『隙間』を設けることで、会の活性化につながっていくことを教えていただきました。

また、大人の『居方』とは、『子ども達だけの空間を大切にするために、大人は見守りに徹する』『子どもの自主性や発想を大切にするために、声掛けや指示を最小限にする』ことです。これらを意識し事業に臨むことで、活動が大人主体のものから子ども主体のものに変化していくことを御教示いただきました。

実践発表や講話・演習から

子ども会活動をさらに活性化させるためには、子ども達や役員が主体的に活動することが大切であり、それをかなえるための活動や運営の工夫について伝えることができました。その中で、事業づくりを行う上での視点や子ども達への関わり方等、体験活動指導者の在り方についても理解を深めることができました。

研修を終えて

研修後のアンケートには、「プレイリーダーは見守ることが大切であり、子ども主体で事業等作っていくことが分かった。」「わかりやすく説明していただいたので、子ども会のイベントを開催するにあたって悩んでいたことがスッキリした。」「早速今後の活動に生かしていこうと思った。」等の感想が多くありました。

本研修会を通して、子どもたちがイキイキと体験活動を行っていくために、指導者の在り方、子どもの安全管理・体験活動に係ることなどを学び、プレイリーダーとしての自覚を深めることができました。また、子ども会活動の活性化を図る具体についての識見を広げ、実践意欲を高めることができたと考えます。今後企画される様々な体験活動のイベントで、多くの子ども達が主体的に参画し、子ども会活動がさらに活性化することを願っております。